

「岡山県における若者の結婚観について」

沢 津 久 司

Hisashi Sawazu

I は じ め に

本学紀要第13号（昭和57年3月発行）において、「女性の時代」といわれる1980年代を生きる女子短大生の結婚観について述べた¹⁾。

この1980年代は岡山県にとっても瀬戸大橋時代²⁾を迎え、大きな変革の予想される年代である。

今回は、従来資料の乏しかった岡山県下の10代・20代の若者の結婚観をとり上げ、高校生、専門学校生、短大生、大学生、社会人に分けて、それぞれの特徴や変化、理想と現実の相違などを明らかにしてみたい。

II 調 査 方 法

1 調査対象及び人数

岡山県内居住又は岡山県出身の10代・20代の未婚の男女1,031人で、表1のとおりである。

表1 調 査 対 象 者

	高 校 生	専門学校生	短 大 生	大学生※	社 会 人	計
男子	(15～18歳) 38校 161人	-	-	(18～26歳) 23校 200人	(17～29歳) 149人	510人
女子	(15～19歳) 35校 135人	(18～23歳) 26校 50人	(18～21歳) 11校 65人	(18～24歳) 13校 98人	(17～29歳) 173人	521人
計	54校 296人	26校 50人	11校 65人	31校 298人	322人	1,031人

※ 男子 岡山県内4大学173人 女子 同6大学87人

2 調査方法及び調査時期

ハガキによるアンケート方式（自由記述式と選択応答式の併用）で、昭和58年1月実施。

III 調 査 結 果 と 考 察

1 結婚希望年齢（図1）

厚生省の調査³⁾によれば、平均初婚年齢は全国では男子28.0歳、女子25.3歳であり晩婚化の傾向がみられるが、岡山県では男子27.4歳、女子24.6歳で全国平均よりは早婚である。県下の未婚の男女の意識はどうか。

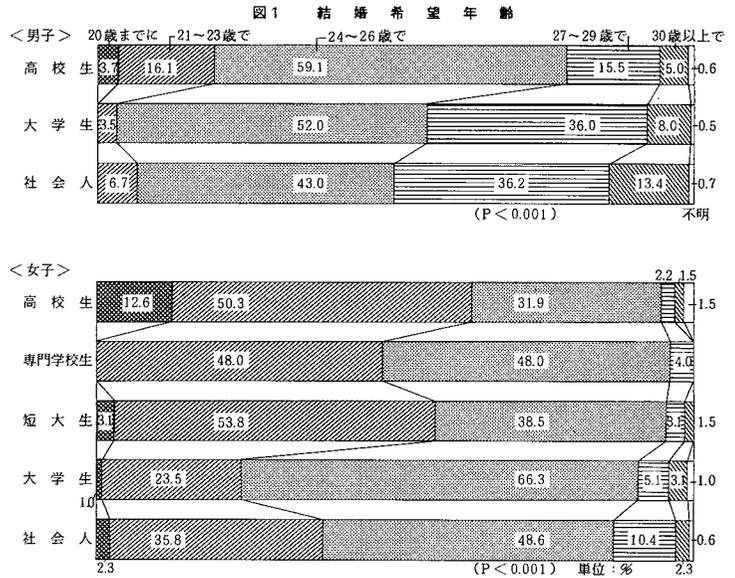
<男子>

図1のとおり、3者間では有意差が認められ、高校生が最も早婚を望んでおり、次いで大学生、社会

人となっている。高校生の78.9%は26歳までに結婚したいと望んでいるが、大学生では55.5%，社会人（会社員・公務員・公社職員）では49.7%と低下しており，高校生の結婚への期待感がよく表れている。これに対し社会人では30歳以上でという者が13.4%もあり，最近の晩婚志向ないしは花嫁不足現象⁴⁾を反映しているものと思われる。

＜女子＞

5者間では有意差が認められ，高校生の62.9%は23歳までに最も早婚を望んでおり，次いで短大生の56.9%，専門学校生の48.0%，社会人（会社員・公務員・美容師・看護婦など。無職は除く）の38.1%，大学生の24.5%となっている。男子同様，女子高校生の結婚への期待感がよく表われている一方，大学生・社会人では27歳以上でという者が8.2%～12.7%もあり，女性の高学歴化や職場への進出が晩婚化・未婚女性の増加の一因であることを示している。



2 花嫁修業の必要性と内容（図2，図3）

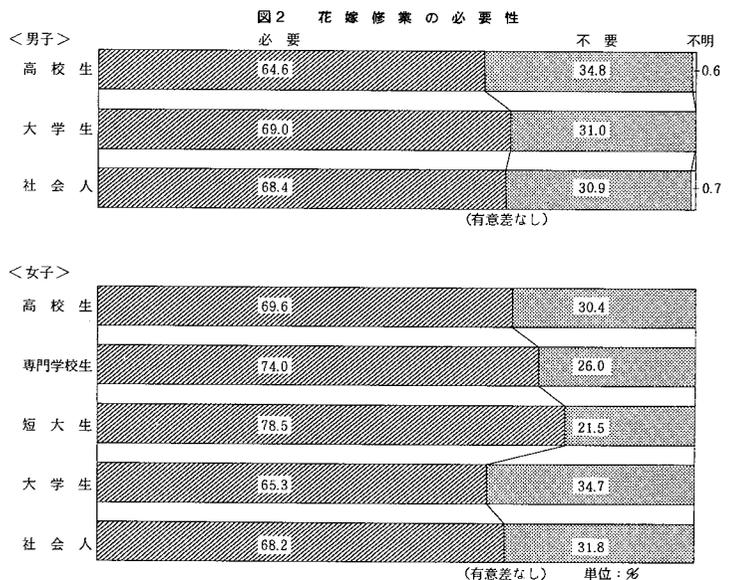
現代は価値観の多様化が指摘され，個性的な生き方が志向されているが，昔ながらの花嫁修業についての意識はどうであろうか。

＜男子＞

図2のとおり，「花嫁修業は必要である」と考える者が64.6%～69.0%，「不要である」と考える者が30.9%～34.8%で，3者間に有意差はない。「花嫁修業の内容」については，「料理」を挙げる者が80.8%～83.3%と「おふくろの味」への郷愁がみられ，次いで「礼儀作法」となっている。

＜女子＞

男子同様，「花嫁修業は必要である」と考える者が69.6%～78.5%と多く，「内容」については「料理」を挙げる者が73.4%～80.4%である。「礼儀作法」などを挙げる者は男子



若者の結婚観

より若干増えており、当事者である女子の心構えを示している。

なお、この設問では一項目だけを優先回答させているが、複数回答であればより本心に近いものが出てくるとと思われる。参考までに本学学生の調査を掲げてみる。

(表2)

表2をみると、「料理」は95.2%と図3の短大生を大きく上回っており、「礼儀作法」「裁縫」も50%以上と多く、次いで「華道」「茶道」「車の運転」の順となっている。この本人の自覚に、親の立場からの勧めもあることを考えると、まだまだ地方にあっては花嫁修業への期待は高く、料理学校・着付教室等の存在も意義あるものといえよう。「礼儀作法」「車の運転」などはやはり現代の世相を反映したものと考えられる。

図3 花嫁修業の内容

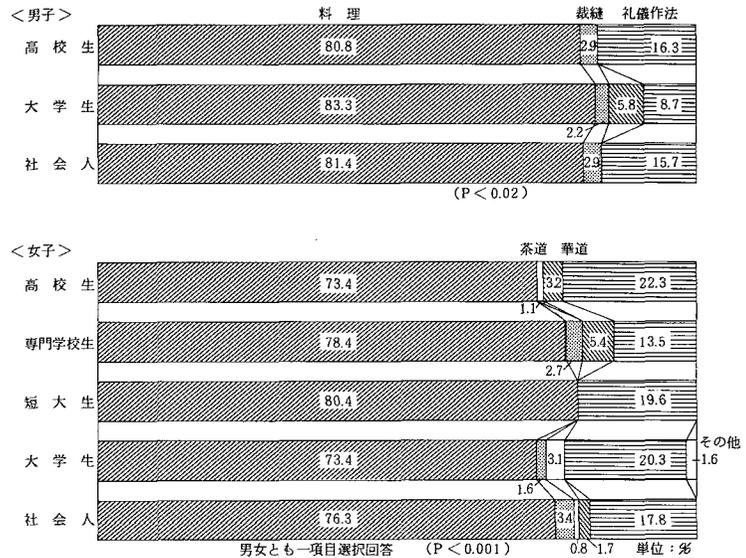


表2 花嫁修業と内容

ア	イ	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
必	不	料	華	茶	裁	英	車	礼	そ
要	要	理	道	道	縫	会	の	儀	他
		理	道	道	縫	話	運	作	
		理	道	道	縫	話	転	法	
228人	37人	217人	64人	46人	145人	8人	38人	162人	5人
86.0%	14.0%	95.2%	28.1%	20.2%	63.6%	3.5%	16.7%	71.1%	2.2%

※ 中国短大 岡山県出身女子学生 265人。昭和58年7～10月。(複数回答)

3 結婚相手との出会い (表3)

現代の若者は恋愛結婚志向が強く、また年齢もあまり離れていない相手を望む者が多いが、結婚相手との出会いの形はどうであろうか。

表3 結婚相手との出会い

	高校生	専門学校生	短大生	大学生	社会人	計
男子	1. 偶然に 51.0%	-	-	1. 偶然に 55.5%	1. 偶然に 52.4%	1. 偶然に 53.1%
	2. 友人と 14.9%	-	-	2. 友人と 8.5%	2. 自然に 10.7%	2. 友人と 10.0%
	3. 趣味の同じ人 7.5%	-	-	3. 自然に 7.0%	3. 見合い 7.4%	3. 自然に 7.6%
	⋮	-	-	⋮	⋮	4. 趣味の同じ人 6.5%
	⋮	-	-	⋮	⋮	5. 見合い 4.9%
女子	1. 偶然に 43.1%	1. 偶然に 52.0%	1. 偶然に 43.1%	1. 偶然に 34.7%	1. 偶然に 49.1%	1. 偶然に 44.3%
	2. 友人と 20.7%	2. 友人と 10.0%	2. 友人と 13.8%	2. 自然に 18.4%	2. 友人と 9.2%	2. 友人と 14.4%
	3. 趣味の同じ人 8.1%	見合い 10.0%	3. 自然に 12.3%	3. 友人と 17.3%	3. 趣味の同じ人 8.1%	3. 自然に 9.8%
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	4. 趣味の同じ人 8.4%
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	5. 見合い 6.0%

(自由記述を分類した)

<男子>

表3のとおり、3者とも「偶然の出会い」（衝撃的な出会いを含む）を夢みる者が50%以上で、「街角でバッタリ出会う」「雨やどりで知り合う」など日常生活にロマンを求めている姿が浮き彫りになっている。高校生は「友人と」が増え、社会人では「見合い」が増えている。

<女子>

専門学校生を除くと、男子に比べて「偶然の出会い」を夢みる者が減るものの、「旅行先で運命的な出会いをする」など旅行・スキー・海水浴等のレジャーにロマンや刺激を求める者、「男性から一目惚れされる」など受動的な立場での出会いを求める者が多い。高校生の「友人と」重視の友達の結婚へのあこがれと、大学生の「自然に」「友人と」重視の慎重な姿勢も目立っている。

4 結婚式のスタイル (図4)

結婚式は「一生に一度、人生最大の儀式」といわれているが、未婚の男女はどのようなスタイルの結婚式を望んでいるのであろうか。当事者の夢と社会的現実の交錯する微妙な問題である。

<男子>

図4のとおり、3者間では有意差が認められ、高校生は「教会派」、社会人では「神前派」が多く、大学生はこの中間で「教会派」と「神前派」が伯仲している。このように高校生・大学生に「教会派」が増えているのは時代変化の象徴であろう。

<女子>

高校生から大学生まで「教会派」が50%以上を占めるが、社会人では逆転して「神前派」が大幅に増加しており、理想から社会的現実に一歩近づき妥協した形となっている。結婚式では譲歩し、その代り新婚旅行は国外へというパターンであろう。

5 新婚旅行の行先 (図5)

<男子>

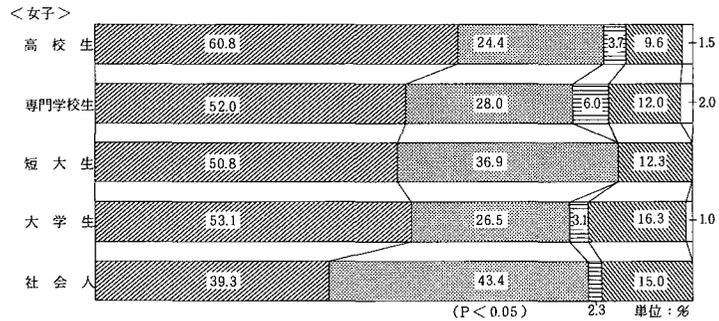
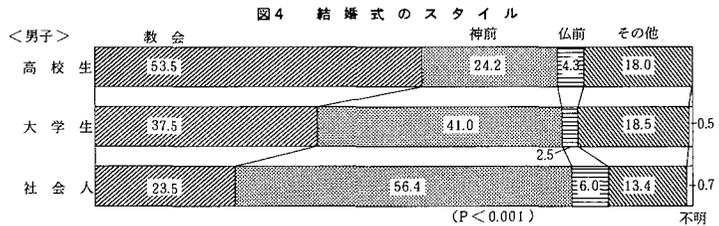


図5 新婚旅行先

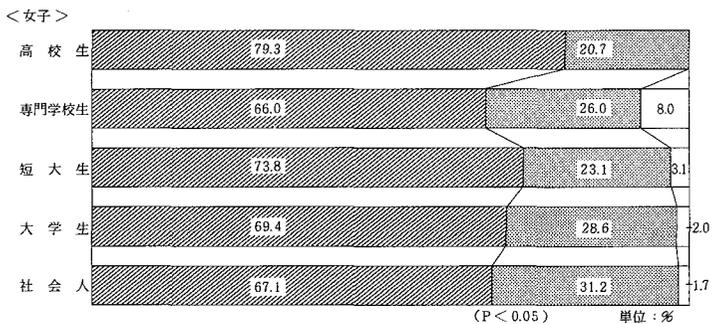
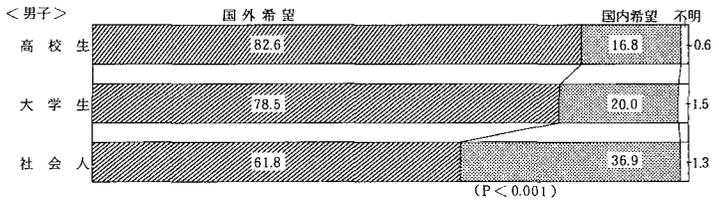


図5のとおり、高校生の82.6%をトップに、大学生，社会人の順で「国外派」が多く、海外ハネムーン熱を示している。

しかし社会人では、高校生に比べ「国内派」が2倍以上に増えている。

<女子>

男子同様、高校生の79.3%をトップに短大生，大学生，社会人・専門学校生いづれも「国外派」が圧倒的に多い。

このように豊かな「経済大国」時代に育った若者の間では、男女とも海外旅行への抵抗感は少なく、楽しい思い出づくりに新婚旅行により経費をかける風潮がうかがわれ、行先については男女とも同じで、1位ヨーロッパ，2位ハワイ，3位オーストラリアとなっている。

6 結婚生活の色(表4)

結婚生活を色であらわすことは、各人の将来の生活設計プランを反映するものと思われるが、どのような色で描いているのであろうか。

<男子><女子>

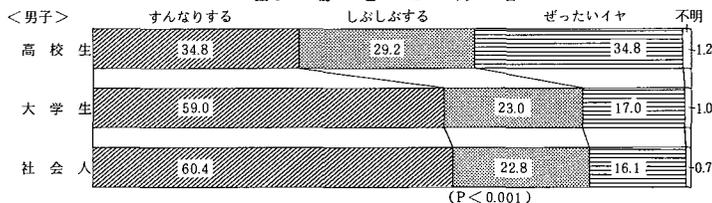
表4のとおり、全般的には男女とも結婚生活を明るい希望の持てる色として描いており、男子では暖かく・明るい「バラ色」、女子では明るく・清楚・純真な「白」、明るく・やわらかい「ピンク」「ブルー」とする者が多い。一方、男子では「灰色」「黒」といった暗いイメージで描く者が高校生→大学生→社会人と増え、社会人では10.1%に達している。女子社会人では4.6%と少ないが、ともども結婚回避?の男女層の一端をうかがわせている。

表4 結婚生活の色

	高校生	専門学校生	短大生	大学生	社会人	計
男子	1.バラ色 28.6%			1.白 18.0%	1.バラ色 23.5%	1.バラ色 22.5%
	2.ブルー 16.8%			2.バラ色 17.0%	2.白 19.5%	2.白 16.1%
	3.ピンク 14.9%			3.ブルー 16.0%	3.ピンク 12.1%	3.ブルー 14.9%
	灰色) 3.7%			灰色) 6.5%	灰色) 10.1%	4.ピンク 13.3%
	黒) 3.7%			黒) 6.5%	黒) 10.1%	5.灰色 5.3%
						灰色) 6.7%
女子	1.ピンク 26.7%	1.白 26.0%	1.ブルー 23.1%	1.ブルー 19.4%	1.白 20.2%	1.白 19.2%
	2.白 19.3%	2.ピンク 22.0%	2.ピンク 21.5%	2.白 18.4%	2.ブルー 17.3%	2.ピンク 19.2%
	3.ブルー 17.8%	3.バラ色 20.0%	3.バラ色 15.4%	3.ピンク 13.3%	3.ピンク 15.0%	3.ブルー 17.7%
	灰色) 0.7%	灰色) 2.0%	灰色) なし	灰色) 3.1%	灰色) 4.6%	4.バラ色 10.7%
	黒) 0.7%	黒) 2.0%	黒) なし	黒) 3.1%	黒) 4.6%	5.緑) 4.4%
						灰色) 2.5%

(自由記述)

図6 親との同居

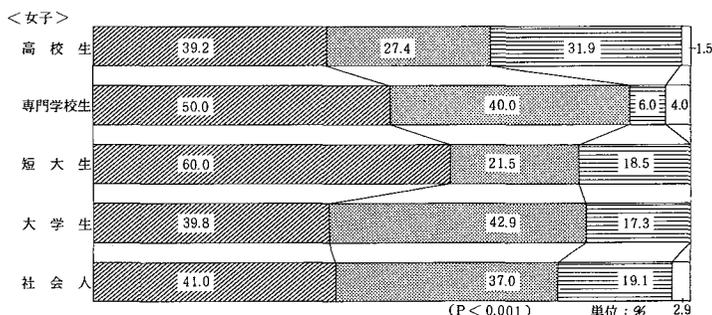


7 親との同居(図6)

いよいよ結婚生活が始まると、親との同居の問題が生じてくる。一時期「家つき、車つき、姑ぬき」という言葉が流行したことがあるが、若者の意識はどうであろうか。

<男子>

図6のとおり、高校生の34.8%は



「親との同居は絶対にイヤ」としており、新妻とのスイートホームを夢みている。逆に、大学生・社会人では「すんなりする」が60%前後、「絶対にイヤ」は17%前後と抵抗感は少なくなっている。

<女子>

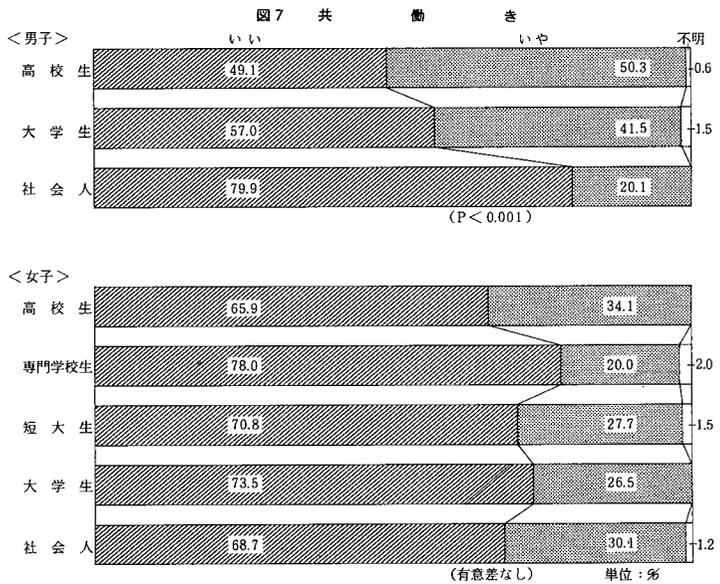
男子同様、高校生の31.9%は「親との同居は絶対にイヤ」と親離れ（姑離れ）を示している。短大生は男子大学生・社会人とほぼ同じで抵抗感是最も少ないが、女子大学生・社会人は男子に比べると「すんなりする」が大幅に減り、「しぶしぶする」が増え、いやいや気分となっている。

ところで夫が長男の場合は、夫の親との同居の可能性が高いが、「結婚に際し、なるべくなら長男を避けようと考えていますか」と調査したのが表5である。一人っ子以外は「こだわらない」という者が最も多く、「むしろ長男の方がよい」という者もあり、「長男は絶対にイヤ」というよりも結婚生活での当事者の工夫次第のようである。

表5 結婚相手が長男なら？

	1. 避けようとする	2. こだわらない	3. むしろ長男の方がよい	4. まだいわから	計
ア一人っ子	9人 39.1%	3人 13.0%	- -	11人 47.9%	23人 100%
イ兄弟・姉・妹あり	81人 33.5%	90人 37.1%	12人 5.0%	59人 24.4%	242人 100%

表2 ※に同じ (P<0.05)



8 共働き (図7)

最近「生きがいを求めて」「生活資金充当のため」「マイホーム購入資金充当のため」などの理由で、結婚後の共働きが一般的になってきている。特に当事者である女子の意識が注目されるところである。

<男子>

図7のとおり、やはり現実に働いている社会人の79.9%は共働きを「いい」としており、大学生、高校生とは有意差がみられる。生活体験の乏しい高校生では「いや」という者の方が多く、スイートホームを夢みている。

<女子>

女子は共働きを「いい」とするものが65.9%~78.0%と積極的であり、5者間に有意差は認められない。男子社会人に比べると、女子社会人は「結婚を期に家庭に入りたい」と考える者がいるためか、11

％低下しているが、逆に女子高校生、大学生はそれぞれ男子より大幅に意欲が高まっており（この三組は男女間に有意差が認められる）、「女性の時代」の意識変化をよく表している。

IV ま と め

以上、西日本有数の中核都市としてさらに発展しつつある岡山県下の10代・20代の若者1,031人の結婚観について述べた。

その特色を要約すると次のようになろう。

<男子>

- ・高校生……………大学生、社会人に比べると「挙式は教会で、新婚旅行は国外へ」という者が最も多く「早く結婚したい」と望んでいる反面、「親との同居」「共働き」については最も否定的で、「バラ色」のスイートホームを描いている者が多い。
- ・大学生……………「挙式は神前」派がやや多く、「新婚旅行は国外へ」という者が多いが、「親との同居」「共働き」なども含め、高校生と社会人の中間的な意識であり、理想から現実へと徐々に変化がみられる。
- ・社会人……………「挙式は神前で、新婚旅行は国外へ」という者が多く、また「親との同居」「共働き」については最も肯定的で、現実的な結婚生活を描いている者が多い。

<女子>

- ・高校生……………「挙式は教会で、新婚旅行は国外へ」という者が女子の間では最も多く、「早く結婚したい」と望んでいる反面、「親との同居」については最も否定的で、二人きりのスイートホームを描いている者がかかりみられる。しかし、男子高校生よりは現実的で、将来の進路（進学又は就職）によってはさらに意識変化の可能性がある。
- ・専門学校生…「挙式は教会で、新婚旅行は国外へ」という者が多く、高校生、短大生に次いで「早く結婚したい」と望んでおり、「花嫁修業」「親との同居」なども肯定的で短大生に近い。「共働き」については、専門的技術・資格を有するため最も意欲的と思われるが（図7参照）、有意差は認められなかった。
- ・短大生……………「挙式は教会で、新婚旅行は国外へ」という者が多く、高校生に次いで「早く結婚したい」と望んでいる。「花嫁修業」「親との同居」「共働き」など肯定的で、素直な結婚志向意識がみられる。
- ・大学生……………「挙式は教会で、新婚旅行は国外へ」という者が多いが、最も晩婚志向である。「親との同居」については「しぶしぶ派」が多く、出来れば独立したスイートホーム志向のためか、配偶者選択では慎重な姿勢が目立っている。しかし、「共働き」については肯定的である。
- ・社会人……………「挙式は神前で、新婚旅行は国外へ」という者が多く、女子の中では最も男子社会人に近づいている。しかし、現実に働いているせいか「親との同居」「共働き」については、男子社会人に比べると肯定的な者は大幅に少ない。「親との同居」については、女子大学生の意識と近づいている。現実観と理想観の交錯した結婚観を形成している。

Ⅲ、Ⅳ特色のように、「花嫁修業」「結婚相手との出会い」「結婚式」「新婚旅行」「親との同居」「共働き」など時代の変化を示しつつ、現代の若者は結婚に対してさまざまな夢と希望を抱いていることが判明した。

しかし、結婚式において「永遠の愛」「終生の結びつき」を誓うにもかかわらず、「女性の時代」の意識変化を反映する1980年代は年々離婚が増加しており⁷⁾、「幸せな結婚」「失敗しない結婚」が望まれるところである。

肉体的には早熟であるにもかかわらず、精神的には豊富なモノの氾濫の中で過保護に育てられ、耐える力も弱く、幼児化現象や生活体験不足現象を指摘されている若者達が自らの「幸せな結婚」のために何を求め、何を考えているであろうか。これらの点についても若干の調査を行っているが、紙数の制約もあり、後日改めて述べたい。

本稿執筆にあたり、岡山市の『タウン情報おかやま』誌に多大のご協力を得ました。ここに深く感謝の意を表します。

参 考 文 献 等

- 1) 沢津久司「女子短大生の結婚観について」 中国短期大学紀要第13号（昭和57年3月）
その後、同「岡山ヤングの結婚意識」『タウン情報おかやま』昭和58年6月号
- 2) 県民の生活や意識に変化をもたらす次の五大プロジェクト事業が進行中である。
 - 瀬戸大橋架橋
 - 新岡山空港建設
 - 高速自動車道建設（中国縦貫自動車道・山陽自動車道）
 - 吉備高原都市建設
 - 岡山県流通センター建設
- 3) 厚生省「人口動態統計」 昭和57年
- 4) 日本経済新聞 昭和57年9月23日付 「“求む花嫁”引く手あまた」
- 5) 山陽新聞 昭和58年7月25日付 「厚生省の独身者結婚、子供観調査」
- 6) 読売新聞 昭和58年10月26日付 「働く女性6割が主婦」
- 7) 朝日新聞 昭和59年1月1日付 「離婚また最多記録」